



清水と生きる。清水を活かす。  
静岡市議会議員

ほり  
堀  
つとむ  
努

新春号

市政レポート No.4

ご挨拶 令和2年、持続可能な地域社会の構築に向けて。

▶昨年、清水港は「令和」新時代の幕開けと共に開港120周年を迎え、様々な記念事業が催されました。7月の「海フェスタしずおか」式典には秋篠宮ご夫妻がご臨席され、併せて清水各所をご視察されました。また、「清水みなとまちづくり公民連携協議会」は、清水港周辺エリアの将来像を描いたグランドデザインを発表し、清水の可能性を広く市民に示しました。清水区は今、かつての輝きを取り戻す大きな1歩を踏み出したといえます。そして、間もなく全線開通する中部横断自動車道は、静岡市と甲信地方とのヒト・モノの流れを飛躍的に加速させ、両河内をはじめとするオクシズ地域にも恩恵をもたらそうとしています。これらを千載一遇のチャンスと捉え、「商工・物流」「農林水産」「観光・交流」という多方面からまちづくりを考える1年といたします。▶他方、去年は10月の台風19号襲来により、多くの家屋が浸水被害に見舞われました。特に清水区においては、清水港の満潮と高潮が重なった影響による、河口付近の河川の越水が主な要因でした。今後、本市においては地震津波対策のみならず、こうした豪雨災害への対応が課題として浮き彫りとなりました。皆様が「安心安全」に暮らせるよう、私も浸水地域の住民の1人として、当事者意識を持って治水対策を進めてまいります。▶結びに、今年は「東京2020大会」の開催に期待が高まる一方で、国際情勢の影響もあり、先の見通し難しい1年となりそうです。そのような中、私は持続可能な地域社会の構築に向けて、流汗悟道を信念として1歩ずつ歩んでまいります。

令和2年2月 静岡市議会議員

堀 努

議員活動 本会議「総括質問」を活用して政策提言、そして実現へ。  
昨年の活動記録です。

「清水のまちづくり」

- ・清水区の活性化には「海」に加えて「山」の視点も不可欠。
- ・中部横断自動車道を起爆剤として、オクシズや清水港の後背地をどのように掘り起こしていくのか。
- ・新サッカースタジアム建設の基本構想を早期着手するべき。

⇒両河内地区への新スマートICの設置や、畑総などの検討を進め、中山間地ならではのまちづくりを図る。

一方、新サッカースタジアムについては、まずは構想づくりに着手していきたい。(R1.6)

「日の出地区」

- ・清水駅から日の出地区にかけての交通対策として、清水港開港120周年事業などで試行された電動カートの導入可能性はあるか。」

⇒開港祭で電動カートの有用性を確認できた。多様なモビリティの利便性と事業性を検証しながら、地区内を快適に移動できる手段の導入を目指したい。(R1.11)



「折戸湾」

- ・折戸湾の再開発を進めようとする際、既に立地する産業への配慮も課題となると考えるが、「清水みなとまちづくりグランドデザイン」においては、臨海部の産業と賑わいのバランスや共存をどのように図っていくべきだと考えているのか。

⇒公民連携協議会を通して、市の役割を果たしていく。新たな産業が立地する一方で、これまで清水を支えてきた歴史ある地場産業が持続し、次世代の形で発展する姿を求める。(R1.11)

日々の活動記録を写真で紹介します。(平成31年1月～令和2年1月)



日々の活動記録を写真で紹介します。(平成31年1月～令和2年1月)



9月2日  
駒越丸体験乗船会



9月29日  
ラグビーワールドカップ応援



10月20日  
伊豆の国市へ台風災害支援



11月12日  
清水南高生徒との意見交換会



11月13日  
We Work視察



11月22日  
バルテックス静岡の皆様



11月24日  
静岡青年会議所卒業例会



12月1日  
「ちきゅう」一般公開



12月2日  
市議会総括質問



12月12日  
清水エスパルスの皆様



12月5日  
ハーフマラソンにチャレンジ



令和2年1月5日  
消防出初式

皆様の声をカタチに変えたい。住みよい清水へコツコツ前進。



カーブミラーの設置



停止線と道路の修繕



カーブミラーの設置



停止線の 신설



側溝フタの設置



グリーンベルトのリペイント



階段の修繕



ベンチの設置



フェンスの新設



フェンスの設置



道路標示の新設



道路の修繕